

◎昨日の話、驚いたね、ヤモリ君がこんなに冷たいとは。ヤモリは爬虫類、トカゲの仲間（オレは両生類と思っていた）変温動物だとは知っていたが、いささか冷たい、「ヤモリは 冷たいね 可哀そうに ふるえている よしよし 逃がしてやるからな」突然で何の話かと申せば、我が家に猫がいる。オスのトラ猫が、普段は“どんくさい”“ひっこみじあん”“怖がり” ながら意外と誇らしく“ハンター”なんだ。「ぎゃ～ ちょっと」呼ばれて駆けつけると、「トラが・・・ ヤモリを 逃がして」と指さす。猫め、ハンターの本性むき出しで、噛んでは手ではたき、目はギラギラ興奮気味である。この騒ぎが1時間で2回もあった。そのつど床に張りついてあきらめかけているヤモリ君を指でつまみ、野外に連れて行ったが、その時2回のヤモリ君をつかんだ感触が、いささか冷たいというわけである。

◎もうひとつ、昨日の話、驚いたね、なんて驚きが二つもあるのは幸せなことなんだか、どうなんだか、仕様もない話。わかっているつもりだけれど、「えええ もう5月だ 3月と 4月が あった？ 速いね はやいね」こんな自分自身があまりにもぼけ気味の話に驚いている。振り返ると、じわりじわり絵は描けているし、山も何度も登っている。そうだね山は月2回のペースがいいね、一週間もするとまた行きたいと思うがそうたびたび山に登ってばかりでは絵にアトリエに失礼だし、月2回のペースがいいね。一日じゅう朝から晩まで山の中に入って、翌日は思い出しながら画文を書くのがいいねえ。

◎ぼやきレコーダーを話さないと感性がぼけると、久しぶりにICレコーダーをもって安威川に来ている。春は花の季節、小さい草花があっちこちに咲いているのは知っていたが、日々河川敷にやって来て、地面を見て空を見て、草を見て花を見て、水を見て中州を見て、詩は浮かんでこなかった。1年もかけて底ざらえの工事が続いた。川の流れに重機が何台も入って安威川の風景が一変してしまった。中州も、積もった土も、樹々も、草も、なくなった。生い茂る草、覆いかぶさるモンスター調の蔦、そんなこんなが無くなって殺風景な河原になった。生き物にはつらいね、「おいらの すみか どうなった どうしてくれよう なんとかしろ」ミミズも、蛇も、カエルも、怒っているかな。

◎一昨日は雨が降った、さほど勢いのある降り方ではないと思っていたが山の方はそうではなかったのか、河川敷が膝あたりまで浸かったようで、低い草や花は泥をかぶって色がぼやけ倒れかかっている。とはいえこの季節、花が咲いている、黄色、白色、紫色、ピンク色、草は緑みどりで萌えもえだ。あれれ、赤い花がないね。今日は午後から雨だというが、空は晴れ模様、青空もある、白い雲も多い、薄暗い雲も混じっている。暖かいなか、夏の半そでシャツで河原を走っている。朝晩は寒いね、冬の防寒具を離せない。アトリエも昼頃からやっと温度が上がりだすという状態かな。

◎コロナめ、いやだねえ、またまた感染者数字がうなぎのぼり、大阪が全国トップで、毎日 1000 人少しの感染者が出ているという。今までの菌じゃなく、変異した菌、そいつの感染力が強いか。日本全国の使者が1万人を超えたとかいう。毎年の風邪ひき、インフルエンザの死者数より少し多いとか。ただ、緊急事態だとか、蔓延防止対策だとか、「出るな 話すな ひつつくな マスクをしろ 店を閉じろ 会合はダメ 学校はダメ 公共乗り物はダメ・・・」あれやこれやを規制する政策がどんどん出てきている、しかも1年を過ぎている。おかげで、人と会えない、仲間と過ごせない、お金儲けができな・・・。みなさん全部が引きこもって、下を向いて、自殺者が増えている。

◎雨が降るとあくる日は河川敷の地面が湿っている、水たまりがある、泥で滑る。もう二日も経っているから大丈夫と思ったが、まだまだ走れない、仕方がないので土手の上にあがって走った、気持ちがいい。

◎昨日に続いて、またもや IC レコーダーを持って河原に来ている。「詩人の 感性を・・・」と欲張っているがポンコツジジイのしぼんだ感性、軟弱頭脳、みずみずしい詩的な言葉なぞみじんも湧いてこない。「ま これは仕方がないよね 無いものは無いんだから・・・」なんてぼやいている。

◎今日は昼から雨が降る、夕方になると雨があがる、という朝の天気予報だった。昼飯を喰って外を見ると、地面が濡れているかなと見えるけれど空は明るい。「よし 行こう」河原にやってきた。空は昨日より明るい、青い空が半分以上広がっている、白く強い雲がある、お陽さんが照ったりかげったり、明るい、雨なんて降るような様子はない。風が吹いている。寒冷前線の通過というけれど、どれが前線で、どこが低気圧で、なにが高気圧なのか、言葉がよぎるだけで何も知らない。ただ雨が降る前にはさっと一陣の風が吹く、空が曇り風が吹き、ぼちぼち降ってくるなど帰りを急ぐ。雨がいつやってくるか、降りだしたら止まらない、ずぶ濡れになるのは嫌だからさっさと帰ろう、こういうことは年の功でわかっている。

◎ゴールデンウィークのなか日、今年の休みは 7 日間。例年なら日本列島に人があふれ東西南北行き交うが、コロナのおかげでひっそりしている。「行くところが無い 河原でも行くか」昨日は普段見かけない人たちが河原に来ていたが、今日は、いつ雨が降るか、姿も見えない。

◎「がしゃーん」今日はいつものコースと違って公園の中でストレッチを始めた。なんだか人の声がするなと思いつつ舗装の上で地面に手をついて下を見ていた。「ボールが 金網に 当たった 音だな」オレはまだじっと下を見ている。「ストレッチは 身体を伸ばして じっとする しばらく じっとするのが いい」昔はせわしなく右に左に、上に下に、身体を動かしていたが、「それは違う しばらくじっと するのがいい」と教わった。やっと顔を上げると 5 人ぐらいの少年たちが、「身体を動かすのが邪魔くさい」といった大人ぶった姿、顔にはまだ幼さが残った少年たち、ボールを蹴ったり放り上げたり、たまに思いきり蹴ったボールが金網に当たって、「がしゃーん」またしばらく間があって、次の少年が、「がしゃーん」の破裂音。少年たち、三々五々に友と語りながら、楽しくないねという雰囲気でもボールを蹴ったり放り上げたり、みんなマスクをしている。

◎空が暗くなりだした、ぽつりぽつり小雨が降りだした。「いやだねえ 濡れるねえ 帰り着くまで こ 1 時間かかるぞ」ジャンパーのフードを被り復路を走りだした。「おお こんな日に こんな時に うお釣りオヤジ」土手の下、草の間に大きな傘を立てている。白と青の大きな傘、傘の中のオヤジの姿は見えない。後ろに止めた単車にもビニールが被せられている。「雨の日は うお釣りオヤジは いないね」と思っていたら彼がいた。うお釣りオヤジ連は真冬も真夏もいる、数は少ないがいる。気候のいい、おだやかな晴れた日には 20 人ぐらいの姿が見られる。オレが昼間に来られなくて、夜の 9 時ころこの真っ暗な河川敷をヘッドランプをつけて走っていると、そんな時間にもうお釣りオヤジはいる。ここで釣れた魚は皆さん喰わない、喰わないじゃなく喰えない、まだまだ川が汚いからね。この 20 年 30 年、安威川の水もきれいになってきた、驚くことに普段は透明な水が流れている。若い頃の大坂の川は、濁った粘っこい水、泡を吹き臭いもきつかった。高度成長の証し、空には煙が、空気は汚れ、騒音は喧しかった。いつの間にか上品な国になってしまった。

◎土手の上も河川敷も草が背を伸ばし始めている。冬には土が見えていた、土の上に冬でも生きているぞと葉っぱはあったが、花が咲き始めるころになると、細い葉っぱがによきによき伸びてきた。まだ膝までの高さだけれど毎日のように緑の量が増えてくる。今の緑はまだ、緑色に黄色を混ぜた若草色だ。そんな若草色の緑の中に、白、黄、紫、ピンクの花が風に揺られてふらりふらり。もう 1.2 か月もすると草の背もオレの背を追い抜かずぐらいに伸び、色も黒い緑になってくる。コロナも葉っぱも旺盛な生命力だ。

田中基著<縄文のメドゥーサ>

メドゥーサ：ギリシャ神話：美女であるメドゥーサは、宮殿で交わったがために怒りをかい、首を落とされる。

◎この先生の話、諏訪神社の話が出てくる。オレは何度も八ヶ岳方面の山に登ってきた。大阪から中央自動車道で諏訪湖を見ながら、その先の諏訪ICで高速道路を降り八ヶ岳の高原地帯を車で走らせた。諏訪神社も一度訪れたことがあるが、通り一遍、ぶらり見ただけだった。諏訪神社の祭り、大木を切り出し山から降ろし神社まで運ぶ勇壮な祭りの画像は何度か見たことがある。

◎諏訪神社上社の神事を見て先生の話。「たいへん面食らったのは、今まで考えていた神社神事に対する知識がほとんど通用しないことであった。御室という半地下式竪穴屋敷があり、その中に籠る御神体は、萱製の五丈五尺（約16メートル）のトグロを巻く蛇体三匹である。

◎大島直行著<月と蛇と縄文人>これを読んだ時も、「なるほど そういう 発想が あるのか・・・」と驚きながらも、今までの文化ではわからない何か、有史以来大陸から伝わってきた文化ではなく、縄文人の独創的な何か独特のものがあつたと思ひ始めている。その独特のものが大陸の文化に押しつぶされながらも我々の中に息づいていると思ひ始めている。縄文人は我々の先祖だと思ひ始めている。

◎世界の古代人が、日本の縄文人が、なぜ月が大事なんだ、なぜ蛇が大事なんだ、このことはいまだにすっきりと理解できない。

◎田中基先生はどんどん持論を展開される。絵を描く人間、物を作る人間であるオレにとって、「造られたものをこういうふうに解釈するのは・・・」というふうには戸惑っている。オレの絵は物の形、姿勢を抽象化して表現している。若い頃、「亀を描いているの?」「かわいい犬に見える」皆さん賛辞を込めていろいろ動物の名前を出されていたが、「はあ・・・」と笑っているしかなかった。田中基先生のおしゃべりを紹介します。

◎永年住みなれた竪穴住居を破棄し、新たな住居に住む何年か一度にある画期に当たって、今まで集落で使用してきた土器、石器そしておそらくは木器らをこの竪穴住居に集め、住居ごと破棄していた。

◎縄文中期に発掘された女神像土器、その外面像の恐ろしい太母の顔の内面像が、ほほ笑む幼童の顔がある。土器を復元していた人が、「これは赤ちゃんを産んでいる母親の姿である。この円形の割れ目は母親の性器、この顔は生まれ出た赤ちゃんの顔だ。この時期の土器模様には性交しているもの、妊娠しているもの、出産しているもの、すべてが揃っている。そういう神々の物語が土器に描かれている」

◎田中基先生は復元をしている方の意見を聞、おおいにわかったと感激されている。「これらの縄文土器の絵は性交 妊娠 出産・・・だ」オレは縄文土器や土偶を見てそこまで思わなかった。今でも、どこを見てそう言えるのかな、どこがそういう表現かな、気持ちは判然としない、オレも画像のプロだけど・・・。

◎バギナ・デンタータ：「歯のある窟」：先生ははっきりと言わないので何のことかと調べると、「窟の中の武器 男根を食いちぎる」とある。諏訪湖の穴場遺跡から出た遺物。「石臼陰部に向かってによっきり伸びた男根石棒右側面からは、ちょうど人間の幼児頭大の髑髏のような顔に見える香炉型土器がガブリ男根に食らいついて見える。」「この写真も、見ようによってはそう見えるが・・・そういう写し方では・・・」

◎男神と性交する女神像：富士見町の遺跡で出た女神像土器。女神の身体部である器腹前面に左巻きにトグロを巻く蛇が頭をもたげ<略>蛇体の渦巻きの内側は交互沈刻文で円を描き、その内側は円形隆帯となっている。この図文は妊娠女性で<略>いわば外陰唇の内側の壁にあたる。女神の体内に挿入されたファロス（ギリシャ語でペニス）が花弁状の窟内部をらせん的に突き上げている様を体内透視法で描写している。「オレ・・・?」

◎縄文土器の模様に、丸い穴から顔を出した顔がたくさんある。「おお可愛い動物か ヒトかな」ぐらいに思っていたが、出産時に顔を出した赤ちゃんだとは思ひもつかなかった。縄文の模様、曲がりくねり、ひょいと丸まり、ギザギザと終わっていく。「縄文土器は すごい」と見ていたが、女神?性交?性器?の表現かな?。

- ◎縄文時代のこと、縄文人のこと、それらの本を読み進めているうちに、日本人のこと、先祖のことが少し見えだした。先祖がわかったからと言って、何がどうなるわけでもないが、「オレ いままで 考え方が間違っていた 教育のされ方が間違っていた」そんなこんなのぼやきを・・・。
- ◎オレが教わっていたころの教育、教師について・・・まずいえることは、小中学時代の先生方、太平洋戦争時代、「勝たねばならない 勝ちたい 負けるものか」国の号令一過一直線に進んでいたのだろう。「それいけ やれいけ」の状態だった。敗戦ではしごを外され、方向が定まらず、目はうつろに下を向いていた。
- ◎「日本は 三等国 貧民国 世界での序列も こんなに低い」「日本は ダメな国だ」「我々には 何もない 何も言えない」教師連中も自信を失い、我々子どもに向かって、ぼやき調子で教壇に立っていた。
- ◎1500 年前から、中国や朝鮮の文化が日本に入ってきた。大陸の先進文化が日本の衣食住を変えていき、思想・思考、文化・芸術方面も、おおいに学んでいった。
- ◎150 年前から、明治時代になり西洋文明が堰を切ってやってきた。西洋の先進文化が日本の衣食住を変えていき、思想・思考、文化・芸術方面も、おおいに学んでいった。
- ◎さてさて、日本人はおおいに学ぶばかりだったのか。日本書紀や古事記は、「中国に対抗できるような 日本の歴史書を作れ」という意味あいでの当時の天皇家が日本の話、天皇家の話を半分はでっち上げた。そんなでっち上げた部分を本当に信じて、「日本はすごいんだ 天皇家はすごいんだ」と盛り上がり傲岸不遜な態度をとった連中や、国民を戦争に駆り立てた輩の集団がたくさんいた。
- ◎神話時代は昔話だと思っていたが、それ以降は教科書で習ったことだし、日本の歴史だと思っていたが、「仁徳天皇稜が 聖徳太子が ほんとは実在したか 否か 今はわからない」ではそれこそ、「オレが習った教科書は どうなっていたんだ」と言いたくなる。仁徳天皇稜は今“大仙古墳”と呼ぶ。聖徳太子は今“厩の王子”と呼ぶ。ただ、“大仙古墳”の規模も年代も事実は事実で、だれが埋葬されているのかわからない。
- ◎個人的に、「天皇家のことは 天皇家で考えたらいい 同じ国民として 並び立てばいい（並び立てたところで 庶民ではないのだから） 普通の家になればいい」と思っている。
- ◎縄文人は、日本人のルーツ、15000 年前に日本にいた日本人だ、そう思うようになった。明日香・奈良時代になって、やっとほんまものの日本人だと思っていたが、石器時代人も、縄文人も、弥生人も、全部日本人である。もちろんまわりからどんどん人が日本にやってきた、どんどんやってきたが、「ここはだめだ たんなる通過地点 すぐにおさらばだ」と流出していった人々の話は聞かない。島国の日本には、東西南北の東からは太平洋を越えてまで人は来れないが、長い年月の間にいろいろな人がやって来て、「ここはいい所だ たんなる通過地点ではない じっくり根を下ろして 幸せになるぞ」ということだった、のだ。
- ◎1500 年前には中国や朝鮮の文化が、150 年前には明治時代になり西洋文明が、今までのものを打ち破って日本人の頭の中に浸透していった。それらの文化文明は、日本の中で主流になり日本も文化文明の花が咲いた。
- ◎オレは、「日本も文化文明の花が咲いた」と信じていた。稲作が来た、王制の真似ができた、文字が来た、鉄が来た。150 年前からは溢れんばかりの便利グッズが箱モノが思想が・・・やって来た。
- ◎絵のことで、1500 年前に画材が入ってきたと思う。絵の具、紙や布、筆、これらの画材が入ってきて、うずうずしていた当時のアーティストが、花鳥風月、宮廷模様・・・を描きだした。それ以来絵の方向がそれぞれに曲がったり上がったり下がったりして尽きることなく新鮮な絵が湧き出していた。
- ◎西洋文明とともに西洋絵画がやってきた。「素晴らしい すばらしい」ひたすらに思っていたが、「日本にも いいのが あったぞ・・・」と思いだしている。
- ◎縄文人の造った土器・土偶が本格的に出土し始めたのはまだまだ日が浅いらしい。どんどん出始めて 50 年も経たないかもしれない。15000 年前から、よその影響を受けない独特の模様、発想、技法・・・これらはすごい。彼らの思考、感性、これは想像するしかないが、造られた物・もの・もの・・・これらはほんとうにすごい。

- ◎御在所岳は有名な山だけれど、今頃になって初めて登ることになった。10年ぐらい前、澤山さんとの付近を何度か来た覚えがあった。山の地図を見ながら、どこだったかと探した。山の地図はもっぱらネットで“ヤマレコ”を利用している。今までアナログの地図、“昭文社の地図”をたくさん買ってはまだに棚にあるが、ヤマレコも同じ昭文社の地図をネットに載せている。話はとんだが10年前の場所、名神高速、八日市ICで降り、八風街道を東へ、当時新しくできたトンネルをくぐって、朝明溪谷の駐車場から登っていた。たまたま当時の写真があり、“根の平峠”の標識が写っていた。「おお ここだ ここに来ていたんだ」これでわかったが、すぐそばの御在所岳には行っていない。不思議に思っていたが、「な～だ 御在所の上は つまらない」ケーブルの上、てっぺんの広い部分は公園のように整備舗装されスカート女性も多い、「そらあ やだねえ」である。
- ◎11時過ぎに歩き出した。武平トンネル西口の駐車所にはすでに20台ぐらいが止まっている。ここは標高が811メートルもあり、1200メートルのてっぺんまで400メートルを一気に登るような感じである。「ええと 登山口は どこかな」地図を見ながら、雨乞岳の登山口と、御在所岳の登山口を見つけた。雨乞岳は30年ぐらい前に登ったことがあるが、どこから入ったのか全く忘れている。今回も雨乞岳に登りたいという気持ちがあったが、有名な御在所岳を見ておかなくてはと登り始めた。
- ◎いきなりえらく急登だと思いながら、エンヤコラ尾根道に出た。右が鎌ヶ岳、左が御在所岳という標識、「あれこれこれは間違えた 先ほどを 左に折れば 武平峠の よつ辻に 出たはず」ちょっとだけのアルバイトをした。後ろの鎌ヶ岳もえらくちよんがった山容、向かう御在所岳もすぐにてっぺんの建物が見える。
- ◎本当のよつ辻がすぐ下にあった。トンネルの反対側は“湯の山温泉”と書いてある。
- ◎上にてっぺんの建物が見えるが、急登、きゆうな登り、なんとか二足歩行で歩けるが、石をつかみ、木の根をつかみ、枝を幹をつかんでエンヤコラ登った。昔、朝明方面から見たときに、岩が多そうな山だなと思っていた。御在所岳は花崗岩ゴロゴロの山だ。ホケキョ君の鳴き声が頻繁に聞こえるが姿は見えない。
- ◎昼過ぎにてっぺん付近にやってきた。ここからは舗装道路がなだらかなてっぺんをぐるり巻いている。腹が減った、飯を喰おう、草の茂ったところに陣取り石に腰掛けた。今日は出発が7:30だったのでゆっくり弁当を作った。ゆっくり造ろうと急ごうと、相変わらずの玄米飯に野菜炒めである。豆ごはんのおにぎり、キンピラ・・いろいろないただきおいしくごちそうさんでした。
- ◎てっぺんには一等三角点、明治18年と書いた看板がでっかく鎮座している。
- ◎今まで三角点のことはさほど関心が無かった。山仲間が、「一等三角点だ」と感激しながら石の頭を撫でていたのを横目で見ていた。調べると、明治の初めころ、陸軍測量部が日本各地を測量する際、一等三角点を1000箇所、二等三等四等まで全国10万か所強点を決め、正確な地図を作った。今はこれもまた山の地図としても大いに参考にさせてもらっている“国土地理院地図”に引き継がれているようだ。三角点の石は90キロもあるそうで、よくもまあ背に担いで登ったものである。歩荷のオヤジがいたんだねえ。
- ◎いつも山登りで思うが、「今日は3時間行程だとか 今日のはてっぺんの手前で聞き返す」なんて歩き始めたときに決めてしまうと、それ以上行きたくない、登りたくないと身体が反応してしまう。これはよくない、「行くぞ 登るぞ がんばるぞ」これでなくっちゃ気持ちが萎えてしまう、と反省。
- ◎一円玉より小さい紫がかかった花が地面にぼつり。「え これ リンドー ヘええ」
- ◎白、ピンク、紫のツツジが所々に咲いている。白い花を見ると、「おお きれい」と思いつつも、光に反射した葉っぱも見方によっては白色を感じる。白い花が咲いていた風景がいくつか頭の中をよぎる。
- ◎3:30車のところまで帰ってきた。今日は快晴の予報だったが、快晴でも曇りでもなかった。黄砂が来ているとかで多少霞んでいた。
- ◎今回は南山城村、三宅宅で野飯を喰おうという計画が追加されていた。食材は上野市で調達、庭で焚火をし、炭をおこし、肉や野菜を焼いた。暗いなか灯りを点し火のちろちろを見ながらおいしくいただいた。帰りの運転があるので飲めないのが痛恨、次回はずひ、ここで、または、山のテント泊で・・。

- ◎先日、「こんな えかき 知ってる この人 こんな動画がある 見て」と言われ、その方の動画を見た。絵はなかなか上手い、しかもどこかの学校の先生のように、しゃべり方も淡々と、しかも気取らず、好印象を受けた。どなたか若い方が企画・撮影・編集を手伝っているのかな、とうらやましいと思いつつ、「オレもやってみようか」と思い付いた。
- ◎オレのカメラ、一眼レフの上等なものを持っている。しかも動画機能が付いている、ただほとんど使ったことが無い。何度か使って、画面が薄暗く、「これは ものにならん 一眼レフカメラの 動画機能は 知れたものかな」なんて勝手に思っていた。
- ◎ネットで調べた。動画でのカメラ、一眼レフは性能が一番いいと出ている。レンズ交換もできる、画質がいい、と載っている。ビデオカメラも安い価格で売っている、山専用なら頭に装着のものまで売っている。
- ◎今まで一眼レフカメラの設定を間違っていた。カメラのトリセツには載っていないが、ネットでは丁寧に教えてくれる。「M モードで ISO は 800 絞りは F4 シャッタースピードは 50/1」なんとこれでやってみると、アトリエのオレの姿が明るく鮮明にでていて、まず撮影はこれで解決。
- ◎「動画のファイル形式はなんだろう」これもまわりの方々、スマホで画像や動画をやり取りしている方々が、「はああ〜知らない 見られるよ 送れるよ・・・」という感じである。
- ◎オレのカメラ“ニコン D7000”これでいくつか取った動画の詳細を見ると、ファイル形式は“MOV 形式”となっている。しかもたった 30 秒の長さで 30 メガの重さだ。普通にメールで送るには 7 メガぐらいが限度なので、この重さはどうしたものかと思案していた。
- ◎動画とはいったいどういうものなんだ。これがやっとわかった。まず動画そのものの連続画像。それに音の部分、音声、音楽、効果音がある。それと静止画像、これは文字だとか、説明のための画像だとかがある。この 3 つで構成されている。現在はもっぱら“MP4”というファイル形式が主流だそうだ。それじゃオレのカメラの“MOV 形式”はダメなのかとひやりとして悩んだ。“MOV 形式”は優秀な形式だが・・・という解説が載っている。
- ◎画像編集ソフトを手に入れなくてはと、ネットで調べた。オレがいつも使っている Illustrator と Photoshop は Adobe 社製のもの、この二つは現在難なく使いこなせる。動画も Adobe 社製のものとは思わなかった。まず価格が高い、プロ用なので今のオレには必要ないという理由である。ネット解説で、「たくさんの無料ソフトがあるが 多かれ少なかれ 無料版は 有料版のミニでしかない」とうたっておられる。
- ◎そんななか、あれこれ見ているうちに、「Shotcut このソフトは まったく無料ながら なかなか優秀なものだ」という口コミに出会った。早速これをインストールして見ている。なかなか難しい。解説用の動画をいくつかインストールして見ている。
- ◎50 歳ぐらいに 200 万円ぐらい払ってマッキントッシュのコンピューターを買った。今でこそ笑い話だけれど、まったく右も左もわからない時間が過ぎ去った。若かったそのころは、夢中で食らいつき、情けない日々を過ごした。Illustrator と Photoshop は、今でこそ、スイスイ動かせる優秀なソフトだが、この歳になって新しいソフトを覚えていくのはなかなかの苦勞である。
- ◎若い時のように、新しいソフトに食らいついていく気力が無い、ついついほかの遊びに気が行ってしまい、「練習だ 勉強だ」と気持ちが進まない。「今月中に なんとか 一作 でっち上げます」なんて公言した。
- ◎先日山に行ったときに、動画を 4 点撮ってみた。「よしこれを何とか」ちょっとずつ時間を割いて作っている。割いているとは、無理をして時間を作っているように聞こえるが、実はあまりやりたくないのに渋々やっているという状態。まだまだ動画に対して気持ちが載ってこない証である。
- ◎4 点をなんとかつなぎ合わせた。Shotcut ソフトに、4 点を出し、こっちを先に、この部分をカット、などの作業で、「これで保存できるのか」と怪しみながらも、ちゃんと PM4 ができているのには、ほっ、である。
- ◎次はこれに、タイトルや説明文字を入れ、もとの音声に音楽を追加、静止画像が入れば最高だ。
- ◎「山を登りながら 頭にカメラを付けて 動画を撮りたい」ふと、こんな気持ちがむくむく欲張りだした。

田中康著<気候で読み解く日本の歴史 異常気象との攻防 1400年>

本によれば、気候は変化しているという。暖くなる、寒くなる、雨が多い、雨が少ない、単純にこれだけのことで、素人ながらも、「去年より今年は寒いね」とか、「今年の梅雨は簡単に終わったね」というようなことは常々口にしている。人の一生、たった60年ぐらいの間に、いくつかの異常気象を経験した。幸いにも大災害には遭遇していないが、ニュースや報道では日本国内外の異常気象やその災害が報じられている。

今世間で騒がれる“地球温暖化現象”も1000年10000年単位の変化から見れば、「まだまだたいしたことはない」という数字かもしれない。これは地球の現象だけではすまされない。オレの持論だけれど、「ヒトの繁殖がすごい 地球の上に ヒトが はびこりすぎる」「ヒトは 地球の表面の姿を 今までの姿から 違った姿に 変えていく」「ヒトは 妙なガスを出す」「文化文明 発展 便利になる 豊になる」こんな掛け声が多すぎる。「オレの一生で なにもそう変わったことはない」と言ってみよう。

今のいま、驚いていることは、天気予報氏が、「梅雨入りだ」と言っているのを聞いた。「ええ もう まだ 5月中下旬だぞ」梅雨というのは6月中旬から7月20日までだと思っていたが、一か月早い。一か月早く始まって一か月早く終わるなら、それはそれでよしと思うが、一か月早く始まって例年通りまでの二か月間も梅雨が続くとこれはうんざりする。本の中で、奈良時代の建設ブーム、鴨長明、藤原定家などの話を紹介。

紀元前3世紀の弥生時代以降、農耕の普及によって平地の森林が開墾されていった。500~600年あとの3世紀に古墳時代に入った。鉄器青銅器の精錬技術が大陸から伝えられ大量の炭が必要となり、ナラ・クヌギ・クリなど広葉樹の硬材が伐採された。

縄文時代からの竪穴式住居から掘立柱建築があらわれた。掘立柱建築とは地面に穴を掘り柱を埋め込む工法。6世紀半ばから、渡来人伝来により、地底に礎石を置き柱を立てる掘立柱工法が取り入れられた。

7世紀には、飛鳥寺、元興寺、四天王寺、法隆寺・8世紀には薬師寺、興福寺、東大寺、八坂神社、出雲大社、都の宮殿・巨大建築物用材に畿内の古木がほとんど切り倒された。

何年前か、寺院復興のための材木が日本に無く、台湾からもらったという記事を見たことがある。日本の山には樹々がたくさんあるのになぜだろうと思っていた。当時の巨大な寺院建築を造るためには、今よりもっと巨大な樹使われた。巨大な樹が何本も茂った山が7,8世紀に切り倒されそれ以降も巨木になる前に切り倒され、日本の山にはもう巨木は無くなったらしい。

1500年前から、日本列島は自然破壊が始まっていた。針葉樹を伐採すると、森林火災が起こりやすい。3500年前、ギリシャでも地中海航行用の船舶建造のため森林を伐採し続け、荒れ果てた山林だけが残った。日本でも、針葉樹が、次いで広葉樹が使いは果たされ、栄養度の薄い土壌にアカマツ林が拡大した。「アカマツ林が増えていった」という話は以前にも聞いた、いい傾向ではないようだ。

アカマツが生えるとマツタケが採れ、幸いなことだと思っていたが、マツタケも昨今は採れない。日本列島の山や森の姿、理想的な姿とはどういうすがたなのか答が見えてこない。現代は山の樹々をあまり利用しない、これが功を奏していい方向に行くのか否か、どちらだろうね。山を歩きながら見る樹々の姿、幹に枝に葉っぱに接すると気持ちがいい、樹々に囲まれると気持ちがうれしくなる。

田中康著<気候で読み解く日本の歴史 異常気象との攻防 1400年>

吾妻鏡「去年と今年の飢饉では、武州<北条泰時>がたいそう民をいたわる策を施され、美濃の国の千余町の年貢について納入を停止され、平出左衛門尉らを美濃の国に派遣し、往来の浪人らに施しを行われた」

吾妻鏡：鎌倉幕府の歴史書。北条家側からの編集記述、「そらあ 悪く書かないわな いいように書くよな」

旱魃と飢饉対策に力点が置かれたのは雨乞の祈祷だ。特に吉野村の丹生川上神社は、「天下のために甘雨を降らし霖雨を止める」とされ室町時代まで続いた。

丹生川上神社は3社あるという、プラス上社と下社。オレがよく通る東吉野村は、“丹生川上神社”そのものだそう。枳屋そうめん店の前を通り、明神平登山口の途中にある。

鴨長明：方丈記：養和の飢饉 <オレ：こんな長い古文、書ける、少しはわかるようになってきた・・・>

養和のころとか、久しくなりて覚えず、二年が間、世のなか飢渴（けかつ）して、あさましきこと侍りき。あるいは春・夏日照り、あるいは秋、大風・洪水など、よからぬことどもうち続き、五穀ことごとくならず。むなく春かへし、夏植うる営みありて、秋刈り、冬収むるぞめきはなし。これによりて、国々の民、あるひは地を捨てて境を出で、あるひは家を忘れて山に住む。さまざまなお祈りはじまりて、なべてならぬ法ども行はるれど、さらさらにしるしなし。京のならひ、何わざにつけても、みな、もとは、田舎をこそ頼めるに、絶えて上るものなければ、さのみやは操もつくりあへん。念じわびつつ、さまざまの財物かたはしより捨つるがごとくすれども、さらに目見立つる人なし。たまたま換ふるものは、金を軽くし、粟を重くす。乞食、道のほとりに多く、憂へ悲しむ声耳に満てり。前の年、かくに如くからうじて暮れぬ。明くる年は立ち直るべきかと思ふほどに、あまりさへ疫癘（えきらい：流行り病）うちそひて、さまざまにあとかなし。世の人みなけいにぬれば、日を経つつきはまりゆくさま、小水の魚のたとへにかなへり。はてには、笠うち着、足引き包み、よろしき姿したるもの、ひたすらに家ごとに乞い歩く。築地のつら、道のほとりに飢え死ぬるものたぐひ、数も知らず。取り捨つるわざも知らねば、くさき香、世界に満ち満ちて、変わりゆくかたちありさま、目も当てられぬこと多かり。いはんや、河原などには、馬・車の行き交ふ道だになし。あやしき賤、山がつも力尽きて、薪さえ乏しくなりゆけば、頼むかたなき人は、自らが家をこぼちて、市に出でて売る。一人が待ちて出でたる価、一日が命にだに及ばずとぞ、あやしき事は、薪の中に、赤き丹（色）つき、箔など所々に見ゆる木、あいまじはりけるを尋ねれば、すべきかたなき、古寺に至りて仏を盗み、堂の仏具を破り取りて、割り砕けるなりけり。濁悪世にしも生れ合いて、かかる心憂きわざをなん見侍りし。

藤原定家は50年以上も自筆日記を書き続け、後世に、「明月記」と名付けられた。大きな干ばつ（本を読みながら、干ばつと旱魃が違うのかと調べた。同じものであった。本来は旱魃だったが、当用漢字ではないので、干ばつになったとか。）が発生すると、飢饉は翌年の収穫期まで続く。奈良時代から江戸時代まで、干ばつや冷害で飢饉が起きると、餓死者が大量に出るのは、凶作の翌年春以降という傾向がある。

明月記：

1230年 69歳夏：早朝涼気あり。薄霧秋の如し。夜涼しくて綿衣を著す。

1231年 70歳 2月：市街で強盗が家屋敷におしいる事件が多発している。

1231年 70歳 7月：飢人且つ倒れ伏し、死骸道に満つ。逐日加増す。東北院の内はその数知らず。

1231年 70歳 7月：死骸逐日加増し、臭香徐ろに家中に及ぶ。およそ日夜を論ぜず、死人を抱きて過ぎ融るもの、数ふるにたふべからず。

1231年 70歳 7月：京中の道路、死骸さらにとまらず。北西の小路、連日加増す。



◎動画をやってみようと思いついたのが5月になったかならないかぐらいのころ、だったと思う。スマホをもたないオレには、動画を撮る、動画を見せる、動画を仲間内でやり取りする、こういうことと無縁だった、やろうとも思っていなかった。とある“えかきの自分紹介”動画、「このYou Tube えかきさん おもしろいよ 素晴らしいよ」と言われ早速それを見たのがきっかけだ。「これは面白い これをやりたい 今のオレにとって なにかが 生まれる きっかけに なるかも」「よしやってみよう」と思いついた。

◎一眼レフカメラは持っているが、動画がうまく写った覚えがない。動画のファイル形式はなんだろう。動画を扱う編集ソフトは何がいいのだろう。オレのまわりには、スマホで動画を撮り、皆さんとやり取りして楽しんでいる方はたくさんおられるが、オレの質問に答えられる人はいなかった。

◎持っている一眼レフカメラ、“D7000”で、「動画を撮る方法」をネットで調べた。Mモードがいい、ISO・シャッター速度・絞り・・・と出ていた。なるほど、ネット氏ほうそをつかない、驚くほどにきれいに撮れている。動画専用カメラより、一眼レフカメラのほうがきれいに撮れる、レンズ交換もできる・・・らしい。

◎動画とはなんだという答も出た。いくつかのファイル形式があるが、今は“MP4”が主流であること。画像と音声のふたつが合体したものだということ。画像は動画・静止画・字幕などを含む。音声は、動画とともに生のマイク音、音楽、効果音、あとから付けるセリフなどの音をいう。

◎ソフトは何がいいかと探した。「あまり有名でないが shotcut を 推薦します」とある動画氏が一生懸命話してくれた。「そんなにいいのか よし それに決めた」ほかのソフトは、いずれ慣れてくれば、ソフトを買わなければいけないシステムのようなのだが、「shotcut は完全無料ですよ」というのもいい。

◎ソフトを開き、テストで撮った動画を shotcut に載せることはできるが、あとは全く進まない、動かない、消えてしまう。「あれれ これは どうなっているのだ・・・」上手くいかないものとはちょっとでも長く付き合いたくない、5分もすればいやになってなげ出す日々が続いた。「あ 動画 今月中になんとか 第一弾を造りませうぞ」と宣言でもしなければまったく進まなかった。いやいやながら、ネットで解説文章を、動画での解説を見た。それではと、ソフトを開き試してみたが、ちょっと進んで、あとは全く進まない、動かない、消えてしまう。「もっと一生懸命 解説文を読み 解説動画を見なければ」

◎まずは一作目ができあがった。御在所岳に登ったときに短い動画を何本か撮った。動画のトリミングやつなぎ合わせ、動画の保存、これだけのことで何日かかかった。次に元の音声にBGMを被せることも成功した。次に字を入れる、字に色を付ける、これまた難しくなかなか上手くいかなかった。そんなこんなでなんとか第一弾が、それから毎日のように絵を描いている姿に静止画を絡め BGM を絡め、セリフを入れ・・・なんてことで、10作ぐらいができあがった。

◎オレが撮る絵の写真画像は重いものでも50M、JEPGは1M、ネットに使うのは0.05Mぐらい。それに比べ動画は重い。軽く処理したつもりでも10分~20分で100M~300Mぐらいに重くなる。保存しておく分には重いものでもいいんじゃないのかな、なんて思い始めているが、この辺のところはまだまだ方法や知識が無い。

◎山に登る時に、身体に装着して撮れる“アクションカメラ”が欲しいと思い始めている。絵を描いている姿、登る山の景色や樹々やテントスタイルも撮りたい。夢は膨らむ・・・。

- ◎しばらく山はご無沙汰、雨の多い今、皆さんを誘って計画するには・・・、と思案していたが、今日一日は雨が降らなさそうと思いきって出てきた。いつものポンポン山、9時過ぎに家を出、いつもの摂津峡：下の口に自転車を止めた。JR 富田駅の下をくぐり、今城塚古墳を横に見るコースが一番近道かな。今城塚古墳は大きい、もう一度見に来たい。一番近道だと思いながら復路はいいかげんに自転車を走らせ気づくと逆走していた。
- ◎長雨で量の多い水が流れる摂津峡を抜け、畑の中を抜け、原村に入る。神峯山寺からの入口は復路で使うのでそのまま原村を通り、新名神高速道路への点検道の鉄扉を開けて中に入る。
- ◎鉄扉のことで思い出すが、昔、信州で、道路の鉄扉が閉まっていた。道路と言っても相当上の方の林道のような道だった。「あ 行き止まり・・・？」「大丈夫 開けてきて」山事情に詳しい澤山さん、「牛や馬が逃げないための扉 勝手に通っていいんだ ロックさえしとけば」それ以来鉄扉があれば自由に通っている。
- ◎今日は降水確率はゼロと出ていたが、空は白い、明るく白い、青空は見えない、太陽の位置がわかるかなというような天気が一日中続いた。ザックには上下雨具と折りたたみ傘は入っている。残念なことに、リンゴとクッキーを入れようと思いつきながら忘れた。これには下山時何度も後悔した、と笑い。リンゴを齧りながら歩くと旨いんだ、チョコ入りクッキーは小腹にころよいんだ。
- ◎人がほとんどいない道を登りだした。そういいながらも、前はペアの人が降りてきたね。今日も犬を連れてペアが降りてきた。犬に目が無いオレ、シェパードを見つめた、彼もオレを気にしている、いいねえ。
- ◎えっちらおっちら登る。「リンゴ しまったことをした 小腹が減ったとき リンゴを半分に割って 齧ると・・・」昨日は雨が降っていなかったように思うが、地面は湿っている。梅雨が一月早くやって来て、終わるのは例年通りだという。二か月も梅雨が続く、コロナとあいまってうんざりだ。
- ◎1時間ちょっとで本山寺の参道に出るだろう、それにしても腹が減ったと時計を見ると、12時を回っている。またもやリンゴを忘れたことが恨めしい、と笑い。自転車が1時間足らず、摂津峡通過が1時間、本山寺参道までが1時間ちょっと、ポンポン山までが1時間ちょっと、何度も来ているのでリズムがわかってきた。
- ◎ここに座って弁当を広げた。玄米ご飯に野菜、いつもながらに旨い。最近ますます、旨いものやグルメから遠ざかっていっている。年をとっても旨いものことばかり言ってるやつが多い、これはオレだけの現象なんかな、旨いものが欲しいとも、変わったものを喰ってみようとも、そういう気持ちが無くなっている。「これ 美味しいよ」と言われれば、「おお ありがとう」とすぐに手を出す、美味しいと思う、たまに美味しいものを喰うと旨い、今のオレはこれでいい、美味しいものがたまたま当たればそれでいい。
- ◎さっきの犬、シェパードまがいかな。「怖がり なんです」とおっしゃっていたが、まるこい目でじっと俺を見ていた、思いだしてもいいねえ。
- ◎「ホッ ホッ ホッ」ハトかなと思ったが声大きい。あれはフクロウだね、たぶん、ちょっと大きい奴かな、大きな声だが姿は探せない。先ほども、「ほ～」「ケツケツケツ・・・」へたくそだけど、ウグイスかな。けたたましい声、静かな声、山の中は鳥の声でいっぱいである。
- ◎ポンポン山のとっぺんにやってきた。京都府との県境、西側に京都洛西の街々が見える。「京都タワーが見えたのは・・・」そうだ間違えていた、それは愛宕山のとっぺんだ。相変わらずうっすら曇り、白っぽい空、風はない、温度計がある、20度足らずだ、暖かい、黒っぽいシャツが塩を吹いて白くなっている。樹々の緑はぼちぼち黒みを帯びた緑色が混じり始めた、いよいよ緑も緑一直線である。
- ◎ベンチに座ってサンドイッチをほうばった、これまた旨い。手造りパンに酢のものとはバナナとキュウリをはさんできた。1時間前に弁当を喰った、ここでボリュームのあるサンドイッチを喰った、これで今日の食いものはない、家まで我慢だ。
- ◎3:30 神峯山寺付近まで下ってきた。さすがに疲れてきた。忘れてきたリンゴとクッキーを思い浮かべながら、「腹が減ったな」とつぶやいている。今日は雨の隙間のハイキング、と思っていたが、こんな低い山ながら9時間の行程はなかなかしんどい。動画のカットもいくつか撮った。